

委員長が、理事会にもかかけず、本人が了承も得ないで、職権で削除した件

期したいと思つて全力を挙げますから、どうか皆さん、御協力ください、そういうことも含まれております。

○長妻委員 根拠がなくて言ったのであれば、しかし、これはもう言ったことですから、では、根拠を、きちつと裏づけをとるといのが大臣の仕事だと思えますよ。ですから、その根拠となる見積もりを、人、物、金がどれだけかかるのか。では、これは総務省と今やっているし、ほかの省庁との連絡会議があるから、見積もりを別の省庁につくらせてもいいじゃないですか、経済産業省だつてやっているんだから。

今わかっているだけで八億五千万枚の紙記録がある。我々は中身を全然見せてもらっていないので、何件入力するのか、どういう作業なのか、細かい状況がわからないわけですね。ですから、政府に出していただきたい。そして、それが可能であれば全力でやる、こういうことを政府が覚悟するのであれば、我々も協力しますよ。

ただ、その見積もりが全然わからない、人、物、金なんか出さない、忙しいから出さない、こういう態度じゃ、また参議院選挙の前と同じ状況になりますよ。ですから、社保庁に見積もりをさせるんじやなくて、忙しいんだつたらほかの省庁に人、物、金の見積もりをさせるとぜひ答弁してください。

○舛添国務大臣 そういう可能性も含めて、関係関係会議がございますので、各省庁の協力を得ます。ただ、何度も申し上げますように、とにかく五千万件の名寄せを最優先にしたいと私は思つて

います。

○長妻委員 協力してやつてくださいよ、大臣。これは、ですから、関係会議をせつかくつくつたんだから、ほかの省庁で手が余っているとところもありますから、二年二月月で、一番の根本解決だと思つていんです、我々は。そのデータの訂正をするには人、物、金がどれだけかかるのか、これをきちつと見積もる、そして、この委員会でご報告すると。いいじゃないですか、それを言つていただいても。何で言えない。

○舛添国務大臣 何月何日までということは今申し上げませんが、今、長妻委員が御提案のようなことも、各省庁とも相談して、全力を挙げて、私は私のこの決意が実現できるように努力をいたします。

○長妻委員 ということは、人、物、金の見積もりを出すということですね。

○舛添国務大臣 先ほど答弁したとおりでございます。

○長妻委員 出すんですか、見積もりを。

○舛添国務大臣 そういう方向で全力を挙げて努力します。各省庁とも相談をしないといけない、お金の問題もある、人手の問題もあります。しかし、おっしゃるような、そういう仕事をするときにはいろいろな見積もりがある、工程表をつくるということはお前提ですから。

ただ、何度も申し上げているように、まず五千万件をやらせてください、それをお願いしているんです。そして、これはおっしゃったような工程表をつくりま

○長妻委員 五千万件の処理というのは、これはどんどんやっていた、これは当然ですよ。しかし、根本解決策を逃がっているんですね、政府は。期限も言わない。(発言する者あり)

ですから、もう一回、今与党席から私の質問はしつこいしつこいと言われましたけれども、確認しないと逃げるんですよ、政府はこれまで。

何がしつこいんですか。きちつと確認しないと被害者の補償が進まない、逃がすわけにはいかないんですよ。

見積もりはきちつととりま

○舛添国務大臣 逃がっているわけではなくて、全部とにか、長妻委員がいい指摘をいつもやっていただきますので、そういういい御指摘、我々が見落としている、いい御指摘をいただいたのを一つ一つ確実に手を打つていくということでありまして、おっしゃったことについても、これはそういう方向できちんと工程表を出したいと思えます。したがって、見積もりをつくりま

○長妻委員 ぜひ早急にお願いをしたいと思

次に、脱退手当金の問題でございますけれども、これは私どもの事務所にも多くの御相談が来ているんですね。脱退手当金をもらっていないのに、あなたはもらったんだと社会保険庁から言われて、その間の記録が抜けている、金をもらったんだから抜ける制度ですね。

そういうことで、もらった、もらわないの非常に多くの御相談が来ているんですけれども、これ

期したいと思つて全力を挙げますから、どうか皆さん、御協力ください、そういうことも含まれております。

○長妻委員 根拠がなくて言つたのであれば、しかし、これはもう言つたことですから、では、根拠を、きちつと裏づけをとるといふのが大臣の仕事だと思ひますよ。ですから、その根拠となる見積もりを、人、物、金がどれだけかかるのか。では、これは総務省と今やつてゐるし、ほかの省庁との連絡会議があるから、見積もりを別の省庁につくらせてもいいじゃないですか、経済産業省だつてやつてゐるんだから。

今わかつてゐるだけで八億五千万枚の紙記録がある。我々は中身を全然見せてもらつていないので、何件入力するのか、どういう作業なのか、細かい状況がわからないわけですね。ですから、政府に出していただきたい。そして、それが可能であれば全力でやる、こういうことを政府が覚悟するのであれば、我々も協力しますよ。

ただ、その見積もりが全然わからない、人、物、金なんか出さない、忙しいから出さない、こういう態度じゃ、また参議院選挙の前と同じ状況になりますよ。ですから、社保庁に見積もりをさせるんじゃないくて、忙しいんだつたらほかの省庁に人、物、金の見積もりをさせるとぜひ答弁してください。

○舛添国務大臣 そういう可能性も含めて、関係閣僚会議がございますので、各省庁の協力を得ます。ただ、何度も申し上げますように、とにかく五千万件の名寄せを最優先にしたいと私は思つて

います。

○長妻委員 協力してやつて下さいよ、大臣。これは、ですから、閣僚会議をせつかくつくつたんだから、ほかの省庁で手が余つてゐるところもありませんから、二年二月で、一番の根本解決だと思つてゐるんです、我々は。そのデータの訂正をするには人、物、金がどれだけかかるのか、これをきちつと見積もる、そして、この委員会で報告すると。いいじゃないですか、それを言つていただいても、何で言えない。

○舛添国務大臣 何月何日までにとつて今申し上げませんが、今、長妻委員が御提案のようなくとも、各省庁とも相談して、全力を挙げて、私は私のこの決意が実現できるように努力をいたします。

○長妻委員 ということは、人、物、金の見積もりを出すということですね。

○舛添国務大臣 先ほど答弁したとおりでございます。

○長妻委員 出ますか、見積もりを。

○舛添国務大臣 そういう方向で全力を挙げて努力します。各省庁とも相談をしないといけない、お金の問題もある、人手の問題もあります。しかし、おっしゃるように、そういう仕事をするときにはいろいろな見積もりがある、工程表をつくるということも前提ですから。

ただ、何度も申し上げているように、まず五千万件をやらせてください、それをお願いしてゐるんです。そして、これはおっしゃつたような工程表をつくります。

○長妻委員 五千万件の処理というのは、これはほとんどやつていただく、これは当然ですよ。しかし、根本解決策を逃げてゐるんですね、政府は。期限も言わない。(発言する者あり)

ですから、もう一回、今与党席から私の質問はしつこいしつこいと言われましたけれども、確認しないと逃げるんですよ、政府はこれまで。与党というのは、一度でも不祥事を追及したことがありませんか、政府の。何がしつこいんですか。きちつと確認しないと被害者の補償が進まない、逃がすわけにはいかないんですよ。

見積もりはきちつととりますね。

○舛添国務大臣 逃げてゐるわけではなくて、全部とにかく、長妻委員がいい指摘をいつもやつていただきますので、そういういい御指摘、我々が見落としてゐる、いい御指摘をいただいたのを一つ一つ確実に手を打つていくことでもありますから、おっしゃつたことについても、これはそういう方向できちんと工程表を出したいと思ひます。したがつて、見積もりをつくります。

○長妻委員 ぜひ早急をお願いしたいと思います。

次に、脱退手当金の問題でございますけれども、これは私どもの事務所にも多くの御相談が来てゐるんですね。脱退手当金をもらつていないのに、あなたはもらつたんだと社会保険庁から言われて、その間の記録が抜けてゐる、金をもらつたんだから抜ける制度ですね。

そういうことで、もらつた、もらわないの非常に多くの御相談が来てゐるんですけれども、これ

○長妻委員 根拠がなくて言ったのであれば、しかし、これはもう言ったことですから、では、根拠を、きちっと裏づけをとるとというのが大臣の仕事だと思いますよ。ですから、その根拠となる見積もりを、人、物、金がどれだけかかるのか。では、これは総務省と今やっているし、ほかの省庁との連絡会議があるから、見積もりを別の省庁につくらせてもいいじゃないですか、経済産業省だってやっているんだから。

今わかっているだけで八億五千万枚の紙記録がある。我々は中身を全然見せてもらっていないので、何件入力するのか、どういう作業なのか、細かい状況がわからないわけですね。ですから、政府に出していただきたい。そして、それが可能であれば全力でやる、こういうことを政府が覚悟するのであれば、我々も協力しますよ。

ただ、その見積もりが全然わからない、人、物、金なんか出さない、忙しいから出さない、こういう態度じゃ、また参議院選挙の前と同じ状況になりますよ。ですから、社保庁に見積もりをさせるんじゃないで、忙しいんだったらほかの省庁に人、物、金の見積もりをさせるとぜひ答弁してください。

○舛添国務大臣 そういう可能性も含めて、関係閣僚会議がございますので、各省庁の協力を得ます。ただ、何度も申し上げますように、とにかく五千万件の名寄せを最優先にしたいと私は思っています。

○長妻委員 協力してやってくださいよ、大臣。これは、ですから、閣僚会議をせっかくつくったんだから、ほかの省庁で手が余っているところもありますから、二年二カ月で、一番の根本解決だと思っているんです、我々は。そのデータの訂正をするには人、物、金がどれだけかかるのか、これをきちっと見積もる、そして、この委員会で報告すると。いいじゃないですか、それを言っていたいても。何で言えない。

○舛添国務大臣 何月何日までにということは今申し上げませんが、今、長妻委員が御提案のようなことも、各省庁とも相談して、全力を挙げて、私は私のこの決意が実現できるように努力をいたします。

○長妻委員 ということは、人、物、金の見積もりを出すということですね。

○舛添国務大臣 先ほど答弁したとおりでございます。

○長妻委員 出すんですか、見積もりを。

○舛添国務大臣 そういう方向で全力を挙げて努力します。各省庁とも相談をしないといけない、お金の問題もある、人手の問題もあります。しかし、おっしゃるように、そういう仕事をするときにはいろいろな見積もりがある、工程表をつくるということは前提ですから。

ただ、何度も申し上げているように、まず五千万件をやらせてください、それをお願いしているんです。そして、これはおっしゃったような工程表をつくります。

○長妻委員 五千万件の処理というのは、これはどんどんやっていただく、これは当然ですよ。しかし、根本解決策を逃がっているんですね、政府は。期限も言わない。(発言する者あり)

ですから、もう一回、今与党席から私の質問はしつこいしつこいと言われましたけれども、確認しないと逃げるんですよ、政府はこれまで。—————何がしつこいんですか。きちっと確認しないと被害者の補償が進まない、逃がすわけにはいかないんですよ。

見積もりはきちっととりますね。

↑
インターネットの議事録も削除